

平成 23 年 10 月 19 日  
株式会社日本政策金融公庫  
農 林 水 産 事 業

～担い手農業者の平成22年農業経営動向分析～

## 昨年は猛暑の影響あるも、一部業種では価格高により増益

日本政策金融公庫（日本公庫）農林水産事業が行った平成 22 年担い手農業者（対象 6,974 先）の経営動向分析の結果、昨年は夏場の記録的猛暑があったものの、一部の業種では生産物価格の上昇により増益となりました。今年は東日本大震災や原発事故及び台風の影響で地域的に大きな影響が出る可能性があります。

### ● 耕種部門では果樹、野菜、茶が増益の一方、花き、キノコが減益

果樹、野菜は猛暑による品薄で市場価格が堅調に推移したため、増益となりました。また、茶は春先に発生した凍霜害の影響から静岡産を中心に荒茶の生産量が減少し、荒茶価格が上昇したため、全体では増益となりました。

一方、施設花きは景気低迷による贈答用花きの需要減退のため法人を中心に減益となったほか、キノコは市場価格が軟調に推移したため減益となりました。

### ● 畜産部門では肉用牛、養豚、採卵鶏が増益

肉用牛は売上高に対する飼料費や素畜費等の生産コスト割合が低下したため増益となったほか、養豚は豚肉価格が軟調に推移した一昨年に比べ堅調に推移したことや、飼料価格の落ち着きから増益となりました。また、採卵鶏についても猛暑の影響により卵の価格が堅調に推移したことで増益となりました。

一方、ブロイラーは猛暑により飼養羽数が若干減少した影響もあって減益となりました。

- 1 集計・分析対象先：農業を営む当公庫のご融資先のうち6,974先（個人：6,347先、法人627先）
- 2 対象経営部門（農業収入の第1位部門で区分）
  - ① 耕種10部門：稲作、北海道畑作、果樹、露地野菜、施設野菜、施設花き、茶、キノコ（法人はこのうち北海道畑作、果樹を除いた部門）
  - ② 畜産5部門：酪農、肉用牛肥育、養豚一貫、採卵鶏、ブロイラー
- 3 対象決算期：平成20年～22年までの3ヵ年を経年比較

平成22年農業経営動向分析(概要)

経営部門		個人経営			法人経営			概要	
		サンプル数	売上高	農家所得	サンプル数	売上高	税引後当期利益		
耕種	稲作	北海道	1,178	→	→	234	→	→	夏場の猛暑の影響で都府県を中心に1等米比率が大幅に低下し、米価が値下がりのもの、売上・利益ともほぼ横ばいとなった。 小麦や大豆等で単収が増加した一方、夏場の高温・多湿で品質が低下し単価が下落したため、売上・利益ともほぼ横ばいとなった。 ミカンやリンゴの単収が下落した一方、市場価格が堅調に推移したため、増益となった。 夏場の猛暑等の影響から、北海道のたまねぎをはじめとして全般的に生育が悪く、市場価格が堅調に推移したため、個人を中心に増益となった。 主品目のトマトが夏場の猛暑の影響で着果が悪く、その後も天候不順の影響から品薄となった他、その他の施設野菜も全般的に生育が悪く、市場価格が堅調に推移したため、増益となった。 景気低迷による贈答用花きの需要減退のため、法人を中心に減益となった。 春先に発生した凍霜害の影響から静岡産を中心に荒茶の生産量が減少し、荒茶価格が上昇したため、増益となった。 市場価格が軟調に推移したため減益となった。
		都府県	1,082	→	→				
	北海道畑作		105	→	→				
	果樹		304	→	↑				
	露地野菜	北海道	100	↑	↑	15	→	→	
		都府県	230	↑	↑↑				
	施設野菜		430	→	→	24	→	↑↑	
	施設花き		295	→	→	14	→	↓↓	
	茶		222	→	↑	22	↑	↑↑	
キノコ		40	→	→	16	→	↓↓		
畜産	酪農	北海道	1,080	→	→	34	→	→	
		都府県	680	→	→	72	→	→	
	肉用牛肥育		368	→	↑↑	46	→	↑↑	
	養豚一貫		148	→	↑↑	93	→	↑↑	
	採卵鶏		52	→	↑↑	46	→	↑↑	
	ブロイラー		33	→	↓	11	→	↓↓	

注) 農家所得及び税引後当期利益は減価償却前

・前年比(売上高、利益+償却費)    ↑↑ : 20%以上増    ↑ : 10~20%増    → : ±10%増減    ↓ : 10~20%減    ↓↓ : 20%以上減

個人経営における平成22年収支状況

個人経営												
経営部門		サンプル数	経営規模			売上高(百万円)			農家所得(専従者給与控除前)(百万円)			
			単位	21年	22年	21年	22年	増減率	21年	22年	増減率	
				A	B	A	B	((B/A)-1)*100	A	B	((B/A)-1)*100	
耕種	稲作	北海道	1,178	水稲作付面積(ha)	14.6	15.1	22.8	22.7	▲0.6%	9.1	8.7	▲4.0%
		都府県	1,082		10.8	11.2	21.3	20.5	▲3.7%	9.1	8.2	▲9.8%
	北海道畑作		105	経営耕地面積(ha)	33.3	33.1	36.8	36.2	▲1.6%	11.8	11.1	▲5.7%
	果樹		304	第1位品目作付面積(ha)	2.4	2.4	13.3	14.3	7.9%	5.0	5.9	18.9%
	露地野菜	北海道	100		10.6	7.8	31.5	35.5	12.8%	11.7	13.8	18.1%
		都府県	230		2.7	2.8	27.1	30.4	12.3%	10.0	12.3	22.6%
	施設野菜		430		5.1	5.4	25.1	26.7	6.5%	9.2	9.9	6.9%
	施設花き		295		5.2	5.4	31.7	33.5	5.7%	10.1	11.0	9.6%
	茶		222	茶園面積(ha)	5.0	5.1	21.4	23.3	8.9%	6.5	7.6	15.9%
キノコ		40	第1位品目収穫量(t)	49.7	53.8	33.4	33.3	▲0.4%	8.6	8.5	▲1.3%	
畜産	酪農	北海道	1,080	成牛頭数(頭)	93.6	90.8	68.0	67.2	▲1.1%	17.5	15.8	▲9.6%
		都府県	680		62.2	62.2	62.0	61.6	▲0.5%	16.0	15.8	▲1.1%
	肉用牛肥育		368	飼養頭数(頭)	249.4	252.0	113.3	111.7	▲1.5%	9.2	12.8	38.6%
	養豚一貫		148	繁殖雌豚頭数(頭)	140.4	141.6	86.5	88.5	2.3%	9.2	12.4	33.7%
	採卵鶏		52	飼養羽数(千羽)	29.1	28.9	91.3	89.1	▲2.4%	6.4	9.6	48.7%
	ブロイラー		33		66.4	65.7	136.2	135.0	▲0.9%	10.8	9.6	▲10.6%

法人経営における平成22年収支状況

法人経営												
経営部門		サンプル数	経営規模			売上高(百万円)			税引後当期利益(百万円)			
			単位	21年	22年	21年	22年	増減率	21年	22年	増減率	
				A	B	A	B	((B/A)-1)*100	A	B	((B/A)-1)*100	
耕種	稲作	234	水稲作付面積(ha)	25.8	26.7	49.7	47.0	▲5.5%	6.0	5.9	▲1.0%	
	北海道畑作											
	果樹											
	露地野菜	15	第1位品目作付面積(ha)	10.2	10.5	102.2	98.0	▲4.1%	6.8	6.1	▲10.0%	
		24		11.2	11.2	91.5	98.5	7.6%	8.2	15.7	91.0%	
	施設花き		14	8.9	9.4	98.3	94.8	▲3.6%	5.9	1.1	▲81.0%	
	茶		22	茶園面積(ha)	16.7	17.3	83.7	97.3	16.3%	8.4	11.5	36.9%
	キノコ		16	第1位品目収穫量(t)	363.6	380.7	223.0	220.3	▲1.2%	12.7	▲1.0	赤字転落
畜産	酪農	北海道	34	成牛頭数(頭)	278.9	277.0	236.3	234.2	▲0.9%	41.8	37.9	▲9.4%
		都府県	72		133.8	137.2	132.7	133.3	0.4%	21.9	20.8	▲4.7%
	肉用牛肥育		46	飼養頭数(頭)	1,169.5	1,194.2	440.0	461.5	4.9%	23.5	34.4	46.2%
	養豚一貫		93	繁殖雌豚頭数(頭)	397.9	399.3	279.4	294.9	5.6%	4.0	21.0	425.2%
	採卵鶏		46	飼養羽数(千羽)	153.7	160.0	475.7	516.1	8.5%	27.5	34.7	26.2%
	ブロイラー		11		173.7	173.7	421.9	420.2	▲0.4%	9.0	3.7	▲59.4%

注1) 農家所得及び税引後当期利益は減価償却前の金額

注2) 増減率はラウンドの関係で数値が合わない場合がある